

『ちからいっぱい やさしさいっぱい』

藤枝市立大洲小学校

月別	ピア・サポート活動 ピア・サポートを中心に据えた行事	プログラム	職員研修
4月	「出発」ステージ ～新しい仲間と仲良くしよう～ ○1年生を迎える会	【学活】 人間関係づくりプログラ ①出合い	【職員会議】 共通理解、 年間計画
5月	○わくドキ活動①② ○運動会 ○児童集会Ⅰ	【学活】 人間関係づくりプログラム ②聴き方	各学級やわくド キ活動で温かな 人間関係作りの 活動
6月	「挑戦」ステージ ～自分の力を伸ばそう 正しいと思ったことはやってみよう～ ○わくドキ活動③ ○クラブ活動①②	【学活】 人間関係づくりプログラム ③自己表現	個々の力をつけ、集団の力を高 める活動
7月		【学活】 人間関係づくりプログラム ④自分の気持ちへの対処・対応 ◎学校生活アンケート（校内）	
8月	・家庭や地域でピア・サポートを 見つけよう。		【夏季研修】 伝達講習
9月	○クラブ活動③④⑤	◎学校生活アンケート（市内）	
10月	「協力」ステージ ～だれとも仲良くしよう 友だちのがんばりを認めよう～ ○わくドキ活動④	個々の力をつけ、集団の力 を高める活動	
11月	○児童集会Ⅱ ○音楽集会		
12月	○特別支援学校との交流（1年） ○わくドキ活動⑤	友だちの成長を認め、感謝する気 持ちを育てる活動	【職員会議】 伝達講習
1月	「ありがとう」ステージ ～人のために行動しよう 感謝の気持ちを伝えよう～ ○わくドキ活動⑥ ○幼稚園との交流		
2月	○ありがとうウィーク	◎学校生活アンケート（校内）	
3月	○ありがとうの会 ○わくドキ活動⑦		

・「温かな聴き方・話し方」「ふわぼか言葉」等の指導
・本校特別支援学級児童との交流
・道徳教育とのつながり
・児童会を中心としたふわぼか活動
・児童会を中心としたあいさつ運動

・打ち合わせ等でのピア・サポート活動についての呼びかけ

1 本校のピア・サポート

本校の教育活動を支える基盤として「仲間の多様性を認め合うやわらかで豊かな心」と「子供・教職員・子供たちを支えるすべての大人の人権感覚の醸成」が据えられている。これを合言葉にしたものが「大洲の誇り ふわぼかの心」である。「ふわぼか」という言葉の中には優しく人とかかわったり、粘り強く物事に取り組んだりすることで、心がふわっと軽くなったりぼかぼか温かくなったりする行動をしようという意味が込められている。子供が目標に向かって自ら行動し、最後までやり抜くためには、友達と協力したりサポートしてもらったりしてよかったと感じる経験が欠かせない。そのため本校では、各指導部で「ふわぼか」を意識した目標を設定し、それらの活動を通して学校教育目標の具現化に向けた取り組みへとつなげている。

2 本年度の取組

(1) 授業において

研究テーマ「みんなでわかる授業」に加え、本年度はサブテーマ「一人一人の学びを深めよう」について「単元構想」「課題提示」「個学の確保」の3つの視点で授業改善に取り組んだ。

各学級で「ふわぼか」を意識して、目指す授業像について話し合う場が設けられ、その目標を掲示した。目指す授業像を目標として掲げて授業を重ねていくだけではなく、1年を通して目指す授業像と自分たちの授業をふり返り、更によりものにするために更新し続けてきた。また、『聴く』ことの大切さを学校全体や各学級で何度も確認し、『聴く』を柱に授業を考えてきた。聴くことで自らの考えが生まれたりより良いものになったりすること、自らの学びが深まるきっかけになることや『聴く』人が『話す』人を支えていることなどの『聴く』ことの大切さを子供が実感している姿が見られてきている。

(2) 特徴的な活動

<提言6>

本校の子供は「ちからいっぱい やさしさいっぱいの大洲っ子」となるという意識をもち、自分たちの活動、行事で「ふわぼかな〇〇にするために」というテーマで話し合いを行ってきている。今年度はその中でも「あいさつ」を柱とし、よりよい学校にするためにはどんなことができるのかを一人一人が考え、実現に向けて活動してきた。児童会本部は、「ふわぼか」いっぱいの大洲小を目指し、5月の児童集会Ⅰで『ふわぼかなあいさつ』をテーマに劇を行った。低学年にもわかりやすい〇×クイズも出し、「だれにでもあいさつ」でふわぼかを広めた。あいさつの渦をより大きいものにするために、あいさつ運動に取り組んでいる子供にインタビューを行った。インタビューの回答は「だれにでも」と「いつでも」と「自分から」の3つのあいさつに分類することができた。そこで、児童会本部では「だ・い・じ あいさつ」というキャッチコピーを作り、児童集会Ⅱで全校に周知した。そして、一人一人が目標を設定し、実践できるように呼びかけた。これらの児童会本部の活動に応えるように、6年生はあいさつ Days を企画し、5年生は学校をよりよくする取り組み e プロジェクトを拡大し、3・4年生は各教室などに出向いてあいさつを行い、2年生は一人でもあいさつ回りをを行い、1年生は「あいさつ」のもつ意味を広げるための放送やポスター作りを行った。このようにどの子も自分が大洲小学校の児童会の一員であることを自覚し、自らの学校をよりよい学校にしていこうというおもいをもち行動する子が増え、よい挨拶も広がってきている。

3 本年度の成果と来年度に向けて

今年度は「ちからいっぱい」と「やさしさいっぱい」の姿を分けて考えるのではなく、2つの姿は相互関係にあり影響し合っていることを教師が理解して子供の活動を支えてきた。個の考えやおもいを大切にしながら活動をつくり上げることで、様々な活動に「ふわぼか」の精神を繋げたり広げたりしていくことができた。子供の中には、どうすればおもいが実現するのかを計画的に考える姿や子供自身が成長を実感する姿が見られた。このような子供たちの「ちからいっぱい」や「やさしさいっぱい」の姿を今後も支え、「大洲の誇り ふわぼかの心」を育み続けていきたい。